

早川 公二 議員 政風会

人口減少社会となつていく中で 本市の人口減少対策を尋ねる

問

(1) 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、我が国の人口は減少する見通しであり、今後50年間で人口は4千32万人の減少が見込まれている。

本市の人口は、18年4月1日の4万3千663人から25年3月1日の4万4千605人までは増加していたが、27年9月1日現在、4万4千507人となり、既に減少傾向にあると考える。

人口が今後減少すると推計されているが、本市の考えを尋ねる。

(2) 人口減少が進行した場合に想定されるまち、仕事への影響として、①生活関連サービス等の縮小、②税収減による行政サービス水準の低下、③地域公共交通

の撤退・縮小、④空き家・空き店舗、耕作放棄地などの増加、⑤地域コミュニティの機能の低下などがあり、生活利便性の低下や地域の魅力の低下を通じて、さらなる人口減少を招く悪循環に陥ることが考えられる。

推計より人口の落ち込みが少なくなるよう対策は講じているか。

(3) 対策として、出産祝い金や一戸建て購入者にお祝い金を交付してはどうか。

子育て世代への支援の拡大や産業の振興、地域の魅力度の向上を図っていく

答 市長

(1) 人口減少社会が本市でも始まっていることに危機感を持たなくてはならない。

その中でも重要なことは出生率である。

合併時には1・45人であった出生率が、24年には1・56人と増えているが、さらに伸ばしていかなくは人口減少の歯どめにはならず、人口減少社会を大変心配している。

(2) 出生率の向上と転出抑制と転入増加を進めていくことが重要。

具体的な取り組みとして、若い世代の結婚、出産、子育ての支援の拡大、産業の振興を図っていくこと、地域の魅力度をさらに磨いていくことを考えていく。

(3) 金銭よりも継続的で切れ目のない子育て支援や住みやすい環境を整備していくことが、大事であると考えており、お祝い金は考えていない。

問

防災訓練に参加すると、参加者の人数、年齢層を見

て、もっと多くの市民の方に参加してもらえないのか、子供や高齢者が少ないのではないかと思ってしまう。

市民が一体となり、防災の知識・技術と共助の力を育成し、地域防災力の強化と防災意識の普及啓発を向上することを目的とした防災運動会を開催しては。

各地区のコミュニティに働きかけていきたい

答 危機管理課長

地域のイベントに防災の要素を取り入れた競技を加えて、大人から子供まで楽しみながら防災を学ぶ防災運動会を実施している団体が近年増えてきている。自助・共助といった地域の防災力の向上には、日ごろから住民同士の顔が分かるつながりが大切であり、つながりづくりのきっかけとして、地域防災力の向上のために大変よい

て、もっと多くの市民の方に参加してもらえないのか、子供や高齢者が少ないのではないかと思ってしまう。



▲栄南学区体育祭の競技風景

企画だと思っている。

本市では、今年度初の試みではあったが、栄南学区の体育祭で、障害物競争のような消防の活動服、ヘルメットなどを途中で装着して、ホースを伸ばし筒先をつないでゴールする競技が実施された。

簡易担架搬送リレーやバケツリレー、防災借り物競争、防災障害物競争や大声競争など企画を各地区のコミュニティに働きかけていきたい。